

次米みのりまつり第二幕

明日香へ届け！恵奈の次米

歌って踊って伝える  
恵奈のお米物語

恵奈の里

すき まい ぬ ほ まつり

# 次米抜き穂祭



春に植えた「恵奈の次米」  
(献上米)が、収穫の時を  
待っています。

1346年目の恵奈の次米

1346年目の恵奈の次米



午前10時  
開催

令和5年9月16日(土)

会場：長島町正家齋田（円通寺前）

今年もおいしい  
お米を食べよう！



栗ごはん  
五平餅  
からすみ  
大福もち

どお〜んと!!  
100白餅投  
げもあります

写真コンテスト開催！



主催 恵奈の里 次米みのりまつり実行委員会

共催 ENAみのじのみのりまつり実行委員会

後援 恵那市 恵那商工会議所 東美濃農業協同組合 (一社) 恵那市観光協会

助成 (公財) 伊藤青少年育成奨学会 恵那市地域のまちづくり活動補助金 十六銀行  
恵那社会福祉事業協力会 岐阜信用金庫  
(財) とうしん地域振興協力基金 夢屋恵那店

協力 正家区 岐阜県立恵那農業高校

お問合せ窓口

恵奈の里次米みのりまつり実行委員会  
(恵那市役所 観光交流課)

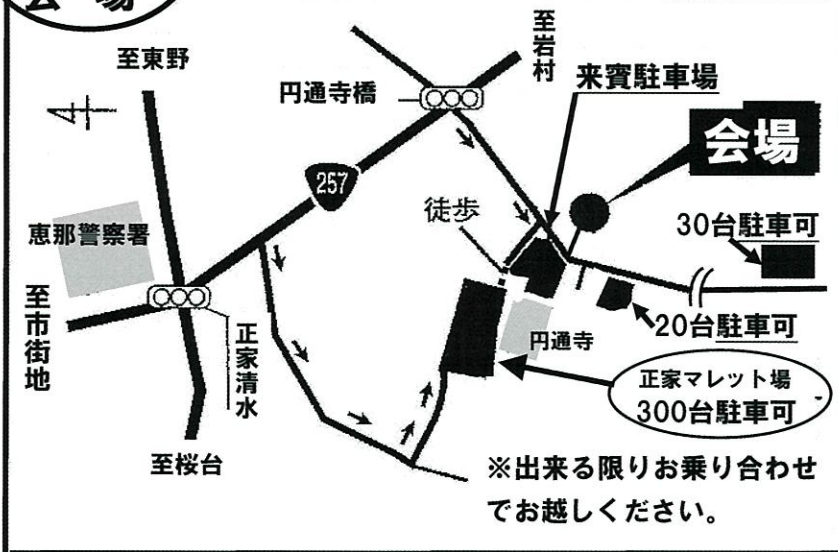
0573-26-2111(内線388)

恵奈の次米HP <http://www.ena-sukimai.com>



お祭り  
会場

## 長島町正家斎田（円通寺前）



## 明日香へ届け!! 恵奈の次米

### 第一幕～第五幕までのご紹介

- 第一幕** 5/13(土) 恵奈の里 次米お田植え祭 ㊦
- 第二幕** 9/16(土) 恵奈の里 次米抜き穂祭
- 第三幕** 9/23(土) 恵奈の次米 献上行列
- 第四幕** 9/24(日) 恵奈の次米 お米の楽市
- 第五幕** 10/8(日) 奈良 薬師寺次米献納
- 10/9(月) 明日香村天武天皇陵次米献納

#### お問合せ先

恵奈の里次米実行委員会  
会長 河村 尚徳 ☎080-3078-2301



### 写真コンテスト

### 応募募集!

次米みのり祭「第一幕～第五幕」に関する写真を募集致します!!

【応募期限】令和5年10月10日(火)～10月17日(火)

【提出形式】jpg形式データをUSBメモリにて「題名、氏名」をファイル名にして提出。おひとり様2点まで。※ファイル名が不備の場合は受付できません。

【入選発表】令和5年10月20日(金)

【賞品】恵奈の次米5kg(入選10名)

【提出先】長島地域自治区事務所(恵那市役所 北庁舎内)

- 【備考】
- ・入選者には本人宛に直接通知します
  - ・入選作は東美濃農業祭にて展示(予定)します。
  - ・著作権は実行委員会に帰属します。

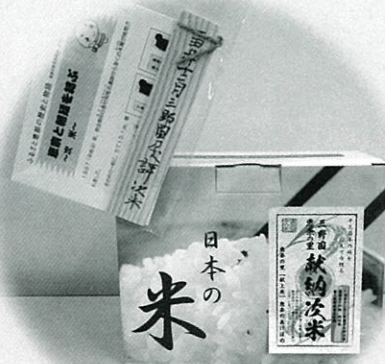


長島町正家の斎田にて作られた、お米「恵奈のあけほの」(農林48号)の新米が9月24日(日)恵那駅前のでなてらすで販売が始まります。

精米3kg

2,000円

恵奈の次米は栽培が難しく「幻の米」と評価の高い品種です。都内の高級寿司店が使用して評判になっています。



## 次米(すきまい)木簡から何が見える? 「刀支評」の中心は恵奈だった!

木簡にある「刀支評」(ときのおおりの)とは今の土岐の周辺ではなく「恵奈」(恵那)を中心とする広い地域であった!

1. 木簡に記載されている「丁丑年」677年の前年、「日本書紀」の三野の国司への文書に「礪杵(とき)郡」の記載がある。  
これが当時の正式な地名であるが、木簡には書きやすい字の「刀支」が使われたと思われる。「土岐」と書く地名が現れるのはもっと後なので、「刀支」は、「土岐」にはつながらないと考えべきである。
2. 天武の時代、東国に通じる東山道には、可児、大井、坂本、阿智の順に駅屋が設けられた。大井と坂本は共に礪杵郡にあって近接しているが、大井駅は恵奈の郡家に付随し、坂本駅はその名の通り、峠越えに備えた施設であり、それぞれが重要な役割を果たしていた。10世紀の「延喜式」に「可児と恵奈の間に土岐の駅屋が設けられた」とあることを見ると、それまで土岐には宿場すらなかったことになる。
3. 「礪杵」の語彙を考えるに、「礪」は砥石、みがくの意、「杵」はきねであるから、大意「きねでみがく」であり、何と次米(すきまい)の産地として、ピッタリの命名である。
4. 天武天皇の後継者と目された大津皇子の事件に連座し、伊豆に流された皇子の腹心が「礪杵道作」(ときのみちづくり)であった。これは、険阻な神坂峠越えの東山道の道、あるいは木曾道の道づくりに貢献した礪杵(恵奈)ゆかりの人物が、天武政権の中樞にいたことを物語っている。
5. 恵奈の地には多くの古墳があり、古代寺院「正家廃寺」もある。また、「日本書紀」に病氣療養のために、松本の温泉に行幸が計画されたと書かれているので、「恵奈五十戸」(えなのさと)が東山道の重要な中継地、東国経営の拠点になっていたと考えられる。

\*詳細は長島町出身の音楽家、著述家 古山和男さんのリーフ「礪杵(刀支)と土岐」をご覧ください。当日受付配布

お問合せ 恵奈の里 次米みのりまつり実行委員会(恵那市役所 観光交流課) TEL 0573-26-2111(内線388)